



No.7

2024年3月31日

# Newsletter

日本遺伝性腫瘍学会 / The Japanese Society for Hereditary Tumors

## 目次

開催報告	第27回日本遺伝性腫瘍セミナー（速報）…………… n3
第26回遺伝性腫瘍セミナー開催報告 …………… n1	第26回遺伝性腫瘍セミナー（オンデマンド受講）…………… n3
お知らせ	第2回遺伝性腫瘍アドバンスセミナー …………… n4
第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 会告 …………… n3	編集後記 …………… n4

## 開催報告

### ◆第26回遺伝性腫瘍セミナー

#### 第26回遺伝性腫瘍セミナーを終えて

プログラム委員長 服部 浩佳

国立病院機構名古屋医療センター遺伝診療科

Li-Fraumeni 症候群 (LFS) をテーマとした第26回遺伝性腫瘍セミナーは、ひさびさに現地会場を設け、オンデマンド配信とのハイブリッド形式で実施しました。3年前の第23回のテーマもLFSでしたが、今回のプログラムを組むにあたっては、この3年間の進歩をいかに反映させるかという点に配慮しました。

ロールプレイ (RP) は前回同様、参加者3人に対しファシリテーター1人と少人数かつ短時間（全体90分、1人当たり演習20分）となりましたが、事後アンケートでも高評価をいただきました。一方で、対面のRPを求める声、RP後の総括講義をライブ配信で行ってほしいという要望があり、今後の課題であると思いました。アンケート調査からは、参加者が満足する主要因としてファシリテーターの寄与が大きいことは前回同様でした。

今回は対面講義である特徴を活かし、症例ディスカッションを2日目に組みました。まず、TP53 遺伝子のサイエンス（加藤俊

介先生）、TP53 遺伝子の解析と病的意義の解釈（山崎文登先生）、小児・AYA 世代のがんゲノム医療（加藤元博先生）の3つの講義を聴いて TP53 バリエントの意義を理解した後に、LFS モザイクと TP53 遺伝子のクローン性造血についての症例ディスカッションを行いました。3名の講師の先生方にはパネリストとしてご登壇いただき、それぞれの専門分野からのコメントをいただき、フロアからの質問にも回答いただきました。予想以上に多くの質問が出て活発なディスカッションとなりました。がんゲノム医療に携わる方々にとっても有意義なセッションになったと思います。

本セミナーにおいては主目的が教育であることから基本事項の網羅は必須ですが、同時に、実際に診療を受ける患者さんが不利益を被らないためにも最新かつ正確な情報を提供していく責務があります。今回のプログラムは、基本情報のみならず最新情報も入れつつ、日々のLFS診療にすぐにも役立つ内容になったと自負しています。最後に、実行委員長である中島健先生をはじめ、田村智英子先生、ご関係の先生方、ファシリテーターの先生方、そして参加者の皆様への感謝を表し、感想と致します。

### ◆参加者の声

#### ▶遺伝性腫瘍セミナーに参加して

梅邑 明子

岩手県立中央病院 乳腺・内分泌外科

今回初めてセミナーに参加しました。認定遺伝カウンセラー®が在籍していない地方のがん拠点病院で、遺伝性腫瘍専門医として遺伝カウンセリングを担当しています。Li-Fraumeni 症候群は未経験ですが、今後対応する必要性があります。現在、育児中で時間と場所の自由が利かないため、オンデマンド講義とZoomのロールプレイは大変ありがたかったです。

ロールプレイは少人数のグループで和やかな雰囲気でした。他の先生方の説明の仕方、ファシリテーターの先生のアドバイス、症例検討など、非常に勉強になりました。普段カウンセリングをしているとはいえ、ほとんどが HBOC の成人患者さんが対象です。未経験の Li-Fraumeni 症候群かつ患児の親を対象とした設定

だったので、普段以上に言葉選びが難しいと感じました。

専門医が少ない地方では、なおさらオンラインでのカウンセリング需要が高まることが予想されます。今回学んだことを活かし、関連施設との連携も深めていきたいと思っています。

#### ▶基礎知識から最新の知見まで学べて、実践もできる

松谷 サディア

兵庫県立がんセンター 遺伝診療科

がんセンターに所属する遺伝カウンセラーとして、遺伝性腫瘍の知識を深め日常診療に活かしたいと思い、参加しました。今回のテーマである Li-Fraumeni 症候群は、私はまだ患者さんに巡り会ったことがありませんが、講義内容は基礎から網羅されており、大変有意義でした。とくに、子どもや AYA 世代への対応の留意点など、遺伝カウンセリングにおける細かなポイントが勉強に

なりました。また、TP53の機能解析に関する講義も興味深かったです。講義資料はPDFが配布され、配信期間も4カ月と長く、復習したいときにいつでも観ることができました。

オンラインでのロールプレイ(RP)は少人数で、ファシリテーターの先生が一人ずつコメントできるよう配慮していただき、安心して意見交換ができました。バックグラウンドのさまざまな先生方とともにRPを経験でき、大変勉強になりました。実際にクライアントとお会いする前に、クライアントの立場を体験する機会をもてよかったですと思います。

次回以降もぜひ参加させていただき、遺伝性腫瘍の知識やクライアントの抱える問題に対する理解をさらに深めて参りたいと思います。

### ▶ 遺伝性腫瘍セミナーに参加して

宇根底亜希子

江南厚生病院 患者相談支援センター

BRCA検査やがんゲノムプロファイリング検査が日常診療で行われるようになり、遺伝性腫瘍の患者にかかわる機会が増えました。医療者は患者やその家族のニーズを把握し、遺伝の専門家に繋ぐことが求められますが、当院にはいないため、よりタイムリーに行く必要があります。そのため、遺伝性腫瘍に関する知識を深めて遺伝性腫瘍コーディネーターを目指すことにしました。今回は現地だからこそ得られるものがあると考え、現地会場にて参加しました。

Li-Fraumeni症候群の患者にかかわった経験は1例のみですが、一つひとつ丁寧な講義でしたので、そのときの経験と結びつけながら学びを深めることができました。対面講義ならではの臨場感があり、非常に有意義な時間でした。グループワークのメンバーは医師ばかりで緊張しましたが、普段遺伝性腫瘍について話し合う機会が少ないので、貴重な時間でした。ロールプレイに参加する勇気がなくセミナーのみを受講しましたが、今回参加して温かい雰囲気に触れることができたので、来年はロールプレイも受講したいと考えています。遺伝性腫瘍に興味のある方にはぜひ受講をお勧めいたします。

### ▶ 遺伝性腫瘍セミナーに参加して

重松 幸佑

埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科

第26回遺伝性腫瘍セミナーに初めて参加させていただいたと

## ❖ ファシリテーターとして参加して

### ▶ ファシリテーターとしての感想およびオンライン開催の意義

二川 摩周

岡山大学病院 臨床遺伝子診療科

認定遺伝カウンセラー®

2回目のファシリテーターとして遺伝性腫瘍セミナーのロールプレイに参加しました。今回は、臨床遺伝専門医、がん看護専門看護師、遺伝性腫瘍コーディネーター、遺伝カウンセラー養成課程の学生など多様な背景をもつ参加者の方々と共に、Li-Fraumeni症候群について議論しました。オンライン開催は、ノン

き、最初は2日間にわたる総論的な講義を予想しておりましたが、実際にはほぼLi-Fraumeni症候群に関する講義で終始し、大変驚かされました。しかも、時間が非常に短く感じられました。私はこれまでLi-Fraumeni症候群の患者と直接会った経験がなく、教科書的な知識しかありませんでしたが、このセミナーで受けた密度の濃い講義により、疾患に対する具体的な患者像をイメージできるようになり、実際のカounselingのイメージをもちやすくなりました。さらに、講義の後にオンラインでロールプレイを行い、これまで実践の経験がなかった症例についても、セミナーで学んだCounselingを実施することで、非常に進めやすい印象を受けました。また、セミナー終了後にはファシリテーターの方から、非常に学びになるご意見を賜りました。Li-Fraumeni症候群に関するCounselingだけでなく、今後の遺伝Counselingにも役立つ非常に充実したセミナーでした。

### ▶ 第26回遺伝性腫瘍セミナーに参加して

玉野 緋呂子

国立病院機構別府医療センター がん相談支援センター

私はソーシャルワーカーですが、遺伝を学ぶ機会はほぼ皆無だったため参加してよいのかと不安でした。しかし、セミナーでは基礎から最新情報までの知識を幅広く授けて下さり、感謝しております。受講したお話のなかでは、遺伝性腫瘍コーディネーターである宮脇先生のお話が印象に残りました。「医師と遺伝専門医だけにかかわるのではない」との言葉に、自身の役割を改めて考えました。業務上、がんゲノムプロファイリング検査や遺伝Counseling調整の依頼が多いのですが、その背景には、身内への罪悪感や残される家族へ思いなど、多様な人生観があります。これまでもそのような場面に出会っていたはずですが、こちらが遺伝というアンテナを持たず、拾えなかったのでしょう。患者さんたちの暮らしや周囲との関係性は、形を変えながら日々続きます。相談はそのなかのほんのひと時です。ソーシャルワーカーの役割は、環境の変化や周囲との関係の中で患者は何を感じ、どう折り合うか、または折り合いがつかない状況下など、すべての場面に寄り添うことです。その過程の中で、遺伝の心配にもアンテナを広げて患者の意思決定を支え、難しいからと敬遠しがちなスタッフにも柔らかく情報共有できたらと思います。

バーバルコミュニケーションの制約がありますが、参加者一人ひとりが事前にはっきりと準備をしてくださっていたため、円滑に進みました。実際に、Li-Fraumeni症候群を臨床で対応した経験がある参加者はいませんが、参加者が多様な視点から考え意見交換することで、非常に有意義なディスカッションを行うことができ、私自身も大変勉強になりました。

前回と比べてオンライン参加への意識的/物理的ハードルが下がっており、遺伝性腫瘍症候群に関心をもちつつも地理的/時間的な制約で参加を見送っていた方々にとって、オンライン開催はよい選択肢になり得ると感じました。

## お知らせ

### 第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 会告

下平 秀樹

東北医科薬科大学医学部・腫瘍内科学教室

このたび、第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会を2024年5月31日～6月1日に仙台国際センターにて開催致します。

当学会にとって30回目の学術集会であり、30周年を記念する特別企画が催されます。

30周年記念特別講演として遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)の原因遺伝子がBRCA1であることを発見した三木義男先生にご登壇頂き、HBOC研究の歴史から今後の展望まで概説いただきます。また、記念シンポジウムでは、本学会の黎明期を支えていただいた先生方、各領域を代表する先生方に本学会の設立の経緯、これまでの活動、今後の展望などに関して講演をいただきます。

海外招待講演では、Lynch症候群の原因遺伝子としてヒトMSH2とMLH1を単離したRichard Kolodner博士にDNAミスマッチ修復機構の研究に関する歴史から最新の話題まで概説いただきます。シンポジウムでは、HBOC、がんゲノム医療、倫理的諸問題、基礎研究の進歩、遺伝性大腸癌の5テーマを取り上げ、要望演題としてマルチジーンパネル検査、リスク低減手術、多職種チーム医療、情報通信技術、ピアサポートに関する演題を募集しています。昨年に引き続き、日本遺伝カウンセリング学会との合同企画も行います。

コロナ禍も明け、ようやく現地で学術集会が開催できるようになりました。青葉の映える6月の仙台にご参集いただき、対面で議論や情報共有をし、一緒に学会の30周年を祝いながら交流を深めていただきたいと思います。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

- テーマ：更なる飛躍を目指して For further progress
- 会期：2024年5月31日(金)～6月1日(土)
- 会長：下平秀樹(東北医科薬科大学医学部 腫瘍内科学教室)
- 場所：仙台国際センター  
(〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地)



- プログラム：30周年記念特別講演、記念シンポジウム、記念理事長講演、海外招待講演、会長講演、会長企画、シンポジウム、要望演題、一般演題
- 連絡先：第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会運営事務局  
株式会社 コングレ東北支社  
〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1  
仙台第一生命タワービルディング  
<https://www.congre.co.jp/jsht2024/>

### 第27回遺伝性腫瘍セミナー (速報)

- テーマ：遺伝性乳癌卵巣癌をメインのテーマとして、プログラム策定中です。
- 講義：(ライブ講義とオンデマンド配信)  
2024年8月30日(金)\*、31日(土)\*\*、9月1日(日)\*\*  
\*8月30日は、オンデマンド配信のみです。  
\*\*31日、9月1日はライブ講義。後日講義録画をオンデマンド配信
- ロールプレイ：2024年9月28日(土)、29日(日)《予定》  
・ロールプレイ講習はオンラインで実施します。3人前後ずつのグループで、2日間の期間中に1人約90分を予定しております。  
・ロールプレイのみの参加申し込みはできません。
- プログラム委員長：  
有賀智之(がん・感染症センター都立駒込病院 外科(乳腺)/遺伝子診療科)  
小林佑介(筑波大学医学医療系 産科婦人科学)

### 第26回遺伝性腫瘍セミナー (オンデマンド受講)

- テーマ：Li-Fraumeni症候群を中心に：小児・AYA世代への対応のポイント
- 講義：(ライブ講義終了、オンデマンド配信中)
- 第2次受付中：2024年3月31日(日)まで(予定)
- 受講料：18,000円
- プログラム委員長：  
田村智英子(FMC東京クリニック)  
服部浩佳(名古屋医療センター)

(遺伝性腫瘍セミナーの最新情報については、右記のサイトよりご確認ください。<http://totalmap.co.jp/seminar-jsht/index.html>)

## 第2回遺伝性腫瘍アドバンスセミナー

- テーマ：がん診療に活かす Cancer Predisposition の考え方  
～がんゲノム医療から小児がんの診療まで～
- 講義：(ライブ講義終了、オンデマンド配信中)

- 受講料：医師：(会員) 10,000 円, (非会員) 12,000 円  
非医師：(会員) 8,000 円, (非会員) 10,000 円
- 申し込み：学会ホームページよりお申込み下さい  
<http://totalmap.co.jp/seminar-jsht/seminar/index.html>

10:00	開会挨拶&理事長挨拶	石田 秀行	埼玉医科大学 総合医療センター
10:10	小児のCancer predisposition総論	田村 智英子	FMC東京クリニック
10:50	小児のがん易罹患性症候群①: DICER1 (DICER1症候群とその関連腫瘍)	中野 嘉子	Cancer Genetics, Division of Haematology/ Oncology The Hospital for Sick Children
11:30	休憩		
11:40	小児のがん易罹患性症候群②: SMARCB1、 SMARCA4 (ラプドイド腫瘍好発症候群: Rhabdoid tumor predisposition syndrome [RTPS])について	中野 嘉子	Cancer Genetics, Division of Haematology/ Oncology The Hospital for Sick Children
12:20	がん易罹患性もある小児の先天性疾患①: TSC1、TSC2 (結節性硬化症: Tuberous sclerosis complex [TSC]) について	北村 裕梨	順天堂大学 小児科・臨床遺伝学
13:00	休憩		
13:40	遺伝性腎癌: FH、FLCN (遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌: hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer [HLRCC])、バート・ホッグ・デュベ症候群: Birt-Hogg-Dubé [BHD] syndrome)について	蓮見 壽史	横浜市立大学 泌尿器科
14:20	バリエーションの評価と病原性解釈①: TP53の評価の注意点や問題点	山崎 文登	慶應義塾大学 小児科
15:00	休憩		
15:10	バリエーションの評価と病原性解釈②: ACMGガイドラインの応用に関する注意点や問題点	山本 剛	埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科
15:50	がん易罹患性もある小児の先天性疾患②: NF1 (神経線維腫症I型: Neurofibromatosis 1 [NF1] または von Recklinghausen Disease)について	西田 佳弘	名古屋大学 整形外科/リハビリテーション科 (骨軟部腫瘍専門)
16:30	閉会		

※アドバンスセミナーの修了証は遺伝性腫瘍専門医の新規申請更新の単位、遺伝性腫瘍コーディネーターの更新の単位として認められています。

## 編集後記

前回の Newsletter 発行から半年間でさまざまなことがありました。気持ちがソワソワして落ち着かないときに、心が穏やかになれる時間を一瞬でももてることは大切だなと感じるこの頃です。

今年度の遺伝性腫瘍セミナーのテーマは「Li-Fraumeni 症候群を中心に：小児・AYA 世代への対応のポイント」、アドバンスセミナーは「がん診療に活かす Cancer Predisposition の考え方～がんゲノム医療から小児がんの診療まで～」でした。人のつながり、医療のつながりの重

要性がより伝わるテーマだなと思いました。

今年アメリカのゴールデングローブ賞を受賞した日本のアニメの原作を読みましたが、ものの見方を考えるよい機会となりました。一つの現象に対しても、いろいろな見方ができるようになりたいです。テーマは見方を伝えるという意味で重要で、今年のセミナーはまた違う視点で参加できました。ものの見方を広げる機会をつかんで、自分ができることは何かを考えつつ、今年も歩んでいきたいです。

(編集委員 M)